

‘さくらひめ’における緩効性肥料の有効性

農林水産研究所

‘さくらひめ’を9月に定植する作型は、採花終了が翌年6月のため、従来の施肥体系では、追肥に労力が必要でした。

また、草勢を確認しながらの施用は、技術が必要で、生育や品質に差が出てきます。このため緩効性肥料を用いて、施肥の改善とその効果について検討しました。



県育成品種
‘さくらひめ’

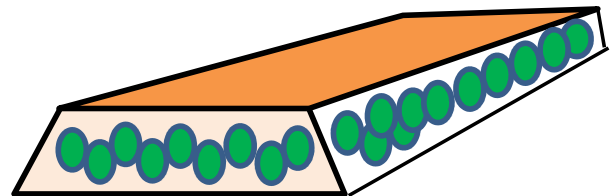
従来の
施肥



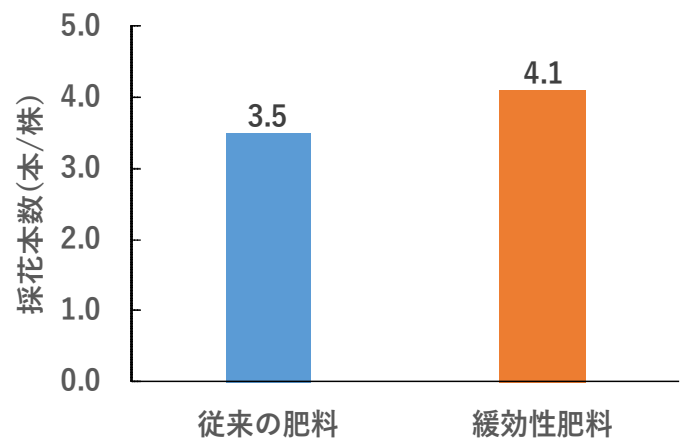
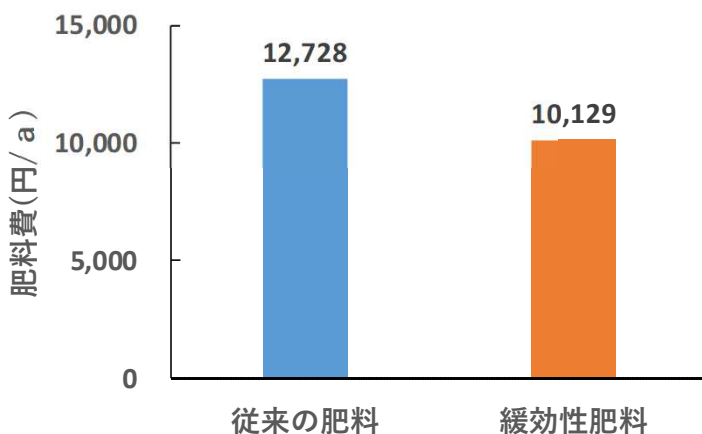
基肥+株間に追肥



緩効性
肥料の
施肥



畝を成型後全肥料を混和



【結果】

緩効性肥料はリニアタイプで肥効期間180日(25°C)をN5kg/a施用することで、次の効果が得られました。

- ① 追肥にかかる労働時間は不要
- ② 肥料費が20%削減
- ③ 採花本数が0.6本/株増加

ユーカリ・グニーの優良個体の選抜

農林水産研究所

県内で栽培しているユーカリ・グニーは、挿し木繁殖が難しく、ほとんどの生産地では実生苗を利用しているため**形質のばらつきが課題**となっています。そこで県内産ユーカリの品質向上のため**実生集団から形質の優れた個体の選抜**を行い、増殖方法も検討しています。

<経過>

○令和2年 4月30日に約9,600粒をは種。

1次選抜 5月29日、6月4日、10月2日の3回実施
13個体を選抜。

(選抜項目：葉や茎のシルバー色が強く、葉の形が丸く、ねじれが無いもの)

○令和3年

2次選抜

令和2年に選抜した13個体から葉・茎色等形質が継続した**5個体を選抜。**



<在来系統>

- ・小葉で葉がシルバー色
- ・節間が長い



<選抜個体1>

- ・葉のシルバー色が強く
- ・枝数が多い
- ・節間が短い



<選抜個体2>

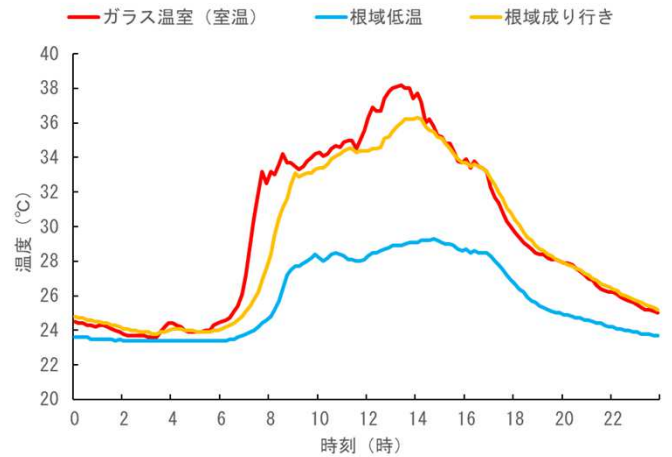
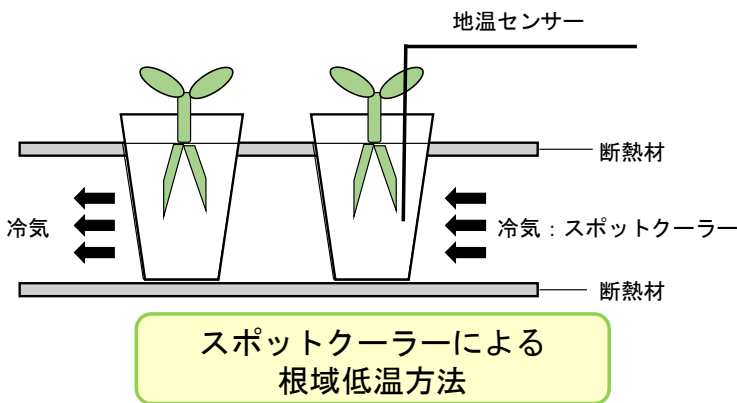
- ・小葉で葉のシルバー色が強い
- ・節間が短い

選抜したユーカリ・グニーの有望個体

‘さくらひめ’ 鉢物の根域低温処理による高品質化栽培

農林水産研究所

‘さくらひめ’の6月上旬に播種する鉢物栽培（超促成栽培）では、移植後から鉢の根域を、25℃設定したスポットクーラーで低温処理することで、成り行き条件（慣行）より花蕾数が多くなり、株幅が大きくなる高品質栽培が可能となる。



鉢内根域及びガラス温室の温度変化 (2022年9月14日)

播種時期及び根域の温度管理の違いが生育に及ぼす影響

播種日 (月/日)	根域 温度 管理	抽台日 (月/日)	開花日 (月/日)	草丈 (cm)	花蕾数 (個/株)	株幅 (cm)
6/10	低温	8/30	10/5	54.9	119.9	23.0
	成り行き	9/19	10/26	33.4	58.1	17.4